製品名: IL-21 ウサギポリクローナル抗体
カタログ番号: APRab12536
研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20℃で保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	18kDa

抗原情報

遺伝子名	IL21
別名	IL21; Interleukin-21; IL-21; Za11
遺伝子 ID	59067.0
SwissProt ID	Q9HBE4
免疫原	抗血清はヒト IL21 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲：91-140

背景

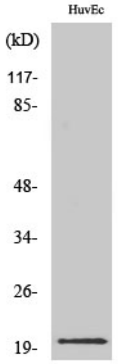
この遺伝子は、免疫調節活性を持つ共通ガンマ鎖サイトカインファミリーのメンバーをコードしています。コードされているタンパク質は、マクロファージ、ナチュラルキラー細胞、B 細胞、細胞傷害性 T 細胞など、複数の標的細胞の分化、増殖、活性を誘導するこ

とにより、自然免疫応答と獲得免疫応答の両方において役割を果たしています。この遺伝子の調節不全は、狼瘡、乾癬、慢性炎症性疾患など、複数の免疫介在性疾患において役割を果たしています。この遺伝子には、複数のアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリアントが観察されています。[RefSeq 提供、2011 年 12 月]、機能：免疫調節活性を持つサイトカイン。自然免疫と獲得免疫間の遷移を促進する可能性があります。B 細胞における IgG(1)および IgG(3)の産生を誘導します（類似性による）。IL-15 との相乗効果でナチュラルキラー（NK）細胞の増殖および成熟に役割を果たす可能性があります。活性化刺激に対する成熟 B 細胞および T 細胞の増殖を制御する可能性がある。IL-15 および IL-18 との相乗効果により、T 細胞および NK 細胞におけるインターフェロン γ 産生を刺激する。T 細胞介在性免疫応答においては、樹状細胞（DC）の活性化および成熟を阻害する可能性がある。,類似性：IL-15/IL-21 ファミリーに属する。,組織特異性：活性化 CD4 陽性 T 細胞に発現するが、CD8 陽性 T 細胞、B 細胞、単球には発現しない。,

研究分野

サイトカイン-サイトカイン受容体相互作用;Jak_STAT;

画像データ



1：500 に希釈した IL-21 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析